

横浜市立都田西小学校 令和元年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
学び合い 認め合い 笑顔輝く 都田西っ子	多面的・総合的に考える力

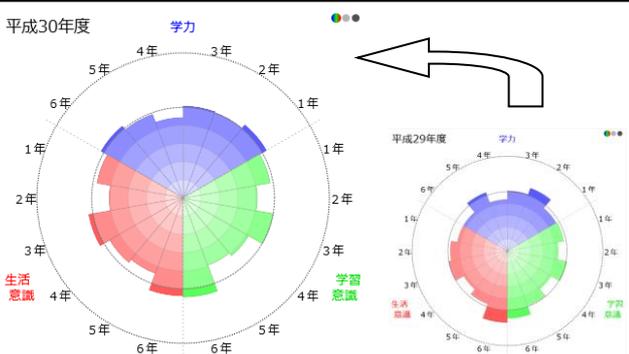
(2) 中期取組目標

中期取組目標
子ども達が自分の中に持っている豊かな心、たくましさ、自ら学ぶ力をすこやかに伸ばします。 <ul style="list-style-type: none"> ・共に生活する中で、自分のよさや友だちのよさを認め合える子を育てます。 ・豊かな体験活動を通して心と体をすこやかに育み、心を言葉にのせて伝え合える子を育てます。 ・基礎基本の定着を図り、夢や願いをもって自ら学び続ける子を育てます。

(3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
生きて はたらく知	①重点研究テーマ『身近な人々や地域とのかかわりを大切にし、じっくり考え課題解決する子の育成』と設定し、生活科・総合的な学習の時間を通して主体的に探究し他者と協働的に取り組む力を育成する。 ②誰もが分かる授業を目指し、基礎基本の確かな定着に努める。
担当	重点研究推進委員会

2 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析

全体的に見ると、国語科では横浜市の平均的な学力よりやや高くなっているが、算数は横浜市の平均と同等で、社会・理科は平均を下回っている。各学年で見ると、5年生がやや低くなっている。各教科では、算数の「活用する力」が、社会・理科の「基礎・基本の力」が低いという結果が出ている。生活意識調査の結果を見ると、「勉強は好き」「授業はわかりやすい」の項目が市平均を下回っている。また、家庭での勉強時間が市の平均よりも少なく、高学年ではスマートフォンや携帯に向かう時間が増えてきている。学習への関心が低いことで、理解や定着が不十分であることがうかがえる。

(2) 教科学習の状況

- 国語科**：学習意識は高学年ほど低い結果が出ている。「言語の知識・理解・技能」がどの学年でも高く出ているが、「話す・聞く」「書く」「読む」については学年によって学力のばらつきが見られる。
- 算数科**：全体的に、学習意識が低い。全学年において、「技能」は全学年で市の平均を上回り、「数学的な考え方や活用力が低くなっている。少数指導がない4年次でかなり低くなり、課題といえる。
- 社会科**：高学年になるにつれて、学習意識がだんだんと低くなる傾向がみられる。学力水準は学年や観点によって異なるが、概ね市平均と同等か少し低い。
- 理科**：3年次には学力・学習意識ともに市の水準と同等だが、4年次・5年次になると学力も意識も市平均より一回り低くなっている。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

学年間の学力のばらつきがややあるものの、学校全体としては概ね市の平均的な学力を身につけてきている。学習意識については、どの教科でも市の平均を下回っている。生活意識調査では、「勉強が好き」「授業はわかりやすい」と考えている児童がここ近年で最も少ない結果となった。この状況を各学年が把握・分析し、誰もが分かる授業、子どもが自ら学びたい魅力ある授業を目指し、授業改善を進めていく必要がある。

3 令和元年度 学年・教科等として育成を目指す具体的な資質・能力と具体的取組

	育成を目指す 具体化した資質・能力	具体的取組	
		前期	後期
1年	◆問題を発見する力 ◆思いや考えを伝え合う能力 ◆身近な事象に積極的に関わる態度	<ul style="list-style-type: none"> 話し方、聞き方など相手に応じた適切なコミュニケーションを指導し活用できるようにする。 言語、数の概念などの基礎基本の定着をはかるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物などを使い、視覚からでもわかるように、言語、数の概念が定着するように指導してきた。 国語や算数では、市の平均より全体的に少し下回った。
2年	◆問題解決に必要なものを選択する力 ◆他者の考えや思いに対する受容性 ◆思いや考えを表現する能力	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の習熟度を細かく確認しながら、課題解決力を高められるようにしどうしてきた。 国語の書く力では市の平均を下回っていた。 理科の技能では市の平均を上回ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 一つ一つの言葉の意味を考えながら文章を読み、内容を正しく理解できるようにする。 豊かな体験を通して、自分の気持ちや考えを、自分の言葉で相手に伝えようとする意欲を高める。
3年	◆多面的・総合的に考える力 ◆内省（振り返り）の習慣 ◆身近な地域への愛着	<ul style="list-style-type: none"> 少人数指導を効果的に行い、児童一人ひとりの表現する力を伸ばす。 友だちと協働しながら、追究していくことができるようにする。 自他を認め、相違点や共通点に気づき互いに学び合えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的意識、課題意識、相手意識を大切にしながら、単元構成を行ってきた。 国語はどの観点においても市の平均を上回った。 算数では、どの観点においても若干市の平均を下回った。特に「量と測定」の領域に課題が見られる。
4年	◆問題解決に必要なものを選択する力 ◆他者の考えや思いに対する受容性 ◆思いや考えを表現する能力	<ul style="list-style-type: none"> 教科横断的な単元構成を行い、児童が興味・関心をもてるようにする。 自他の考えを認め合い、協働して学ぶ姿勢を培う。 出前授業や体験学習を通して、実感を伴う理解を深められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数指導や他の担任による授業交流を行うことで、多面的なものを見方や自分の考えを表現できるようにする。 振り返りの時間を確保することで、活動や学習が次へつなげられるようにしていく。 米作りを通して、身近な農家の方や米の加工先などに興味をもつ。
5年	◆多面的・総合的に考える力 ◆内省（振り返り）の習慣 ◆身近な地域への愛着	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方との触れ合いから学んだことを自分の生き方や考え方に生かす。 他者と協働的に取り組むことによって自分の考えを広げたり深めたりする。 授業の中で振り返りを行うことで、達成感や自信につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科担任制を取り入れ、一つの課題に対してより深い指導をした。 話す・聞く力、基礎・基本、活用が市平均を下回っていた。 算数での量と測定では、考え、技能、知識理解全て市平均を下回った。図形の技能は、成長が見られた。
6年	◆問題解決に必要なものを選択する力 ◆他者の考えや思いに対する受容性 ◆思いや考えを表現する能力	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の習熟度を細かく確認しながら、課題解決力を高められるようにしどうしてきた。 国語の書く力では市の平均を下回っていた。 理科の技能では市の平均を上回ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 人との関わりを通して学び合うことを大切にしてきた。 国語や算数については基礎・基本、活用ともに市平均を下回った。 算数の計算問題は正答率が高かった。宿題などで繰り返しドリル学習を行った成果だと思われる。

個別支援学級	<ul style="list-style-type: none"> ◆身近な事象に積極的に関わる態度 ◆思いや考えを表現する力 ◆自然や文化に感動する心 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語環境の工夫や少人数での活動の場を作り、思いや考えを伝えあう体験を通して表現する力を高める。 ・話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、実態に応じた適切なコミュニケーション手段を日常的に指導し活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画をもとに一人ひとりの課題を明確にし、自立活動や学習課題の指導に取り組んだ。 ・宿泊学習や学習発表会などの行事を通じて、様々なコミュニケーション手段を活用し、友達と協働して生き生きと活動することができた。
---------------	--	---	--